

内科専門研修プログラム

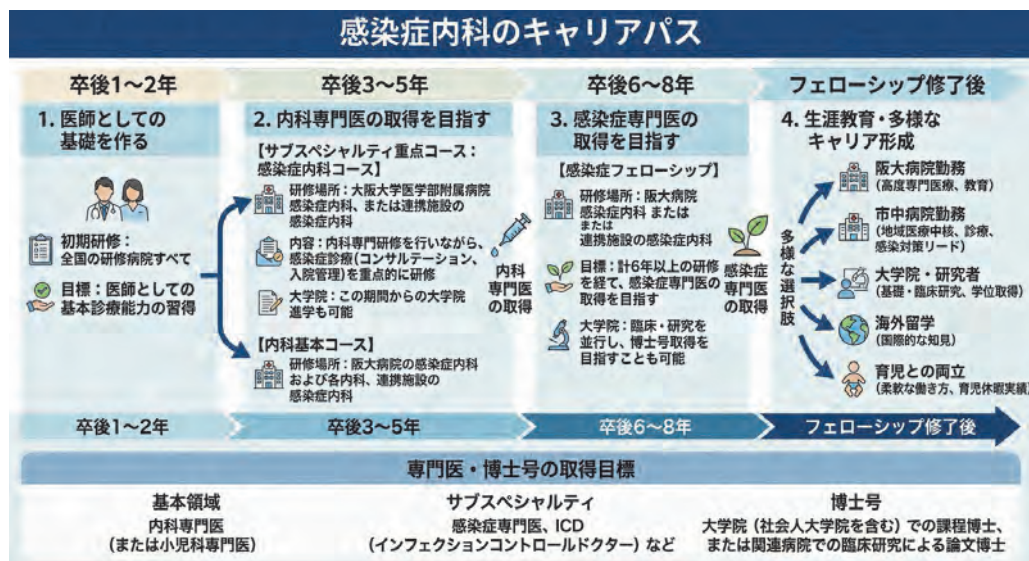
サブスペシャリティ重点コース / 感染症内科コース

(1) コースの全体像

2年間の初期臨床研修の後、卒後3年目より大阪大学医学部附属病院感染症内科、または大阪大学関連病院にて専門研修（総合診療科・感染症内科）を行う。内科専門医を取得することを目指す。

感染症専門医は、専門医機構による専門医制度においては内科専門医または小児科専門医のいずれかの基本領域学会専門医を取得した上で合計6年以上の感染症研修を行うことが求められることから、本コース修了後さらに3年間の感染症研修を行うことが望ましい。

(2) コースの概要



大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成（受入）人数	期間
大阪大学医学部附属病院	感染症内科	感染症内科	9名	内科診療および感染症診療における基本的技術の習得	3名	3年
りんくう総合医療センター	感染症内科	感染症内科	3名	内科診療および感染症診療における基本的技術の習得、新興再興感染症、輸入感染症	1名	1年
国立病院機構 大阪医療センター	感染症内科	感染症内科	5名	内科診療および感染症診療における基本的技術の習得、HIV診療	1名	1年
国立病院機構 大阪医療センター	感染症内科	感染症内科	5名	内科診療および感染症診療における基本的技術の習得、HIV診療	1名	1年

※養成（受入）人数、期間については、適宜調整可能

(3) コースの実績

専門研修では3年程度のサブスペシャリティの専門研修を受けられる。内科専門医取得後は、感染症専門医の取得を目指す。プレゼンテーション能力を身に付けるべく、複数回の全国総会での学会発表を指導している。また臨床感染症、微生物、感染症疫学、感染対策、渡航医学など多方面にわたり、臨床・研究を指導している。性別を問わず育児休暇を取得可能であり、これまでに3名の男性医師が育児休暇を取得している。

（４）コースの指導状況

大阪大学医学部附属病院では、全ての診療科からの感染症コンサルテーションに指導医とともに対応する。また主治医として入院患者の診療も行う。

学会発表については一連の流れを指導医のもとで経験し、複数回の発表を行い、積極的に論文化することを指導している。また、市中病院や他大学の総合内科との合同カンファレンスや他講座との勉強会などに自由に参加でき、総合内科として診療科を超えた最新の知見を得ることが可能である。また関連病院では、循環器内科、腎臓内科、神経内科などのサブスペシャリティのための研修を選択することが可能であり、各種専門医資格の必要要件を整える。

（５）専門医の取得等

学会等名	日本内科学会
資格名	内科専門医、総合内科専門医
資格要件	教育プログラムに則った研修３年以上
【学会の連携等の概要】 大阪大学は内科学会認定教育施設であり、感染症内科という分野は様々な臓器に疾患を持った患者群を扱うことから症例が豊富である。	

学会等名	日本感染症学会
資格名	感染症専門医
資格要件	内科専門医または小児専門医を取得の上、６年間の感染症研修
【学会の連携等の概要】 大阪大学は日本感染症学会認定研修施設である。	



問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 感染症内科

担当者 佐田 竜一

✉ sadao@cider.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/hp-infect/>

